

残コンゼロ 環境守る

名古屋芸大と再生製品

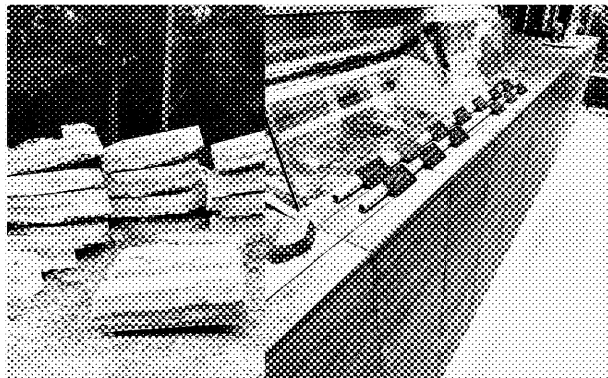
フジプレコンはコンクリート二次製品メーカーとして、約40年にわたり道路用・鉄道用のオリジナル製品の企画・製造・販売を手がけてきた。安心・安全な暮らしや社会を支えるのに必要なインフラに貢献している。同時に脱炭素社会実現のため地球環境に目を向け、自社のコンクリートをムダなく使用するための活動にも取り組み始めた。

鉄道事業では北海道から住宅地の道路までから九州まで、鉄道輸送に不要な施工可能送に関するケールをなすリット側溝などを保護するためのトラフ製造し廃材を生まないやダクトのふたなどを工夫をしている。しかし製造。軽量コンクリート、本社工場（愛知県武豊町）と豊橋工場（同豊橋市）での製造過程で労働安全や作業負担の軽減に貢献している。は型枠への流し込みな道路事業では高速道路などで発生する「残コン」

フジプレコン

次代を担う 39 中部企業

とされる廃棄になる余剰物が1日当たり約1ト生まれだ。そこで松林克法社長は、この残コンをゼロにできないかと模索し、物干し台用のブロックなどにリサイクルしたエコプロダクトの製造



残コンをリサイクルしたコンクリートが奈良県のジェラート店内でカウンターとして活用



JR東日本青森車両基地に採用された軽量のダクトふた

良島のジェラート店内のカウンターとして内装に活用されている例もある。さらに別件でも引き合いがあり採用が続く予定がある。名古屋芸術大学との産学連携にも乗りだし、建築家の長坂純明氏が考案したコンクリートタイルにも採用され、奈良のジェラート店に採用された。学生らの提案や工場見学を経てエコプロダクト製品の共同開発を行った。着実に形になりつつあり「2025年には販売を開始した」（松林社長）と残コンのゼロに向け意気込んでいる。低炭素コンクリート開発も進め、多様な角度で地球環境に貢献していく。

（名古屋）
（随時掲載）

【企業概要】

▷所在地＝愛知県武豊町字四畝40の9
▷代表者＝松林克法氏▷設立＝1982年（昭57）12月▷資本金＝1000万円▷従業員＝63人▷売上高＝8億6000万円（23年8月期）